目的補語 Ø GN と À GN の選択

── toucher の場合 ──

山　本　香　理

0. はじめに

動詞 toucher は名詞グループを，直接目的補語（以下 Ø GN）または間接目的補語（以下 À GN）として従えることができる。両者が使用可能な場合やその選択が制限される場合もある。

（1）Le chancelier touche *l'épingle / à l'épingle.*

（Vandeloise 1993 b : 120）

（2）a. Je peux pas y croire! J'ai tué un mec! Touche *le revolver,* il est encore chaud.

（S. Sawicki, 1993, Leçon particulière de meurtre）

b.*Je peux pas y croire! J'ai tué un mec! Touche *au revolver,* il est encore chaud(1)。

（3）（話し手は若い料理人）

Ceux qui font le chaud se sentent investis d'une mission suprême, alors que nous, là, même si on se donne un mal de chien, ils nous mépriseront toujours.

a. On ne touche pas *au feu,* nous . . .

（A. Gavalda, 2004, *Ensemble c'est tout*）

b. * On ne touche pas *du feu,* nous. . .

従来の研究の中で，À GN を選択する場合は Ø GN に比べて「抽象的意味

合いが強く」[2]GN に意味的な制約が課されると指摘されることがあった。また，Ø GN と À GN の選択によって様々な表現効果が生じるようである。

本稿の目的は，実例の観察に基づいて，両形式の使い分けを明らかにすることである。両者の選択をめぐっては Vandeloise（1993 a, b），小熊（1996）などの先行研究がある。本稿ではこのような先行研究を出発点として，以下の点を考察する：

（a） 各形式において使用頻度が高い GN の特性

（b） 同じ GN を従える場合に各形式の選択によって生じる表現効果

1. 先行研究

1. 1. 辞書の記述

まず，Ø GN と À GN の間の差異を明らかにするために，*Le Robert en langue française, Grand Larousse de la langue française*，『白水社ラルース仏和辞典』の記述を参照してみよう。以下の引用の中で下線は筆者が付したものである。

（a） *Le Robert en langue française*

I. Trans. dir. Entrer en contact avec（qqn. ou qqch.），de façon légère ou violente. （*ibid.*：1465）

II. Trans. indr. *Toucher à*. . . Entrer en contact avec. . .（. . .）1. Porter la main sur. . . À la différence du transitif direct, *toucher à* . . . ne marque jamais un contact violent；il exclut la sensation du sujet, <u>pour porter l'attention sur l'objet de l'action</u>. （*ibid.*：1466）

軽くまたは激しく対象と接触することを述べる場合は Ø GN を用いる。一方，対象に向けて手を差し伸べるという場合は À GN を選択する。そのときの関心は，事行主体の感触にではなく，事行対象に向けられる。

Grand Larousse de la langue française では，具体的にどの場合に行為の対象に関心を向けるのかが詳しく記述されている。

（b） *Grand Larousse de la langue française*

«TOUCHER», VERBE TRANSITIF

1. Entrer en contact avec une personns, un animal, une chose, par quelque partie de corps（qui n'est pas précisée ; il s'agit souvent de la main）.

（*ibid.* : 6130）

«TOUCHER À», VERBE TRANSITIF INDIRECT

1. Porter la main sur une chose matérielle, pour la prendre, la manipuler, s'en servir, en modifier la position ou l'état, etc. （*ibid.* : 6133）

Le Robert en langue française と同様に，人・動物・物といった対象に体の一部で接触することを述べる場合は Ø GN を選択する。一方，対象を手に取ったり，使用したりまたは対象の位置や状態を変えるなど，対象に対して何らかの働きかけ意図して触れようとする場合に À GN を選択する。

最後に，À GN を選択する場合の対象の特性について言及している『白水社ラルース仏和辞典』の記述を見てみよう。

（c） 『白水社ラルース仏和辞典』

N_0［人］～N_1［N 0＝人；N 1＝物・人］さわる，（…に）触れる

（*ibid.* 1133）

N_0［人］～à N_1［危険な物・大事な物・人］（…に）手を触れようとする，手をつける，手を出す。〈～N_1〉が「直接接触する」のに対し，〈～à N_1〉は「接触しようとする」で，多く否定形で用いる。

（*ibid.* 1134）

以上の指摘をまとめると次のようになる：

（a） 事行主体が対象に触れることを述べる場合は Ø GN を選択する。

（b） 事行主体が対象に対して何らかの働きかけを意図して触れる／触れよ

うとすることを述べる場合は À GN を選択する。

（c） À GN を選択する場合は対象が「危険な物・大事な物・人」である。

（d） À GN は否定文の中で多く用いられる。

1. 2. Vandeloise（1993 a, b）

従来，対象との物理的接触を表現しようとする場合は Ø GN を用い，抽象的接触を表現しようとする場合は à GN を用いると指摘されることがあった。例えば，（4 a）は港に着岸する場面で用いる。一方，（4 b）は港に接近している場面の他に「長い間待ち望んできた安全な場所」に達することを伝える場面で用いる(3)。

（4）a. Le bateau touche *le port*.

b. Le bateau touche *au port*. （Vandeloise, 1993 b : 113）

このように，Ø GN と à GN の使い分けは事行主体と対象の接触が物理的であるか抽象的であるかの区別に対応するとされてきた。

Vandeloise（1993 b）は Ø GN と À GN が競合関係にある例を挙げつつ，À GN の使用条件を詳細に記述している。この論考では，対象に通常結び付けられる事物・行為を伝えようとする場合や対象との接触の結果を述べる場合は À GN を選択すると主張されている。

例えば，（5 a）はトランプと物理的接触がなかったことを示す。一方，（5 b）はトランプに結び付けられる事物・行為への関与がなかったことを示す例であると Vandeloise は指摘している。例えば，chancelier がトランプゲームのブロットやトランプの最中に起こる笑いや叫び声に関わっていなかったことを述べる場合は À GN を選択する。

（5）a. La chancelier n’a pas touché *une carte* pendant la soirée

b. La chancelier n’a pas touché à *une carte* pendant la soirée.

（Vandeloise, 1993 b : 117）

次の例も同様である。（6）は本との接触を否定するのではなく，本と結びつけられる読書への関与を否定している。実際，本に接触している場面でも

(6) の発話は有効である。

（6）Le bachelier n'a pas touché *à un livre.* (*ibid.*)

そのことから，À GN を選択する場合には toucher の事行主体や対象には制約が課されることになる。

まず，事行主体は対象に結び付けられる事物・行為に関わることができるものでなければならない。例えば，次の（7 a）では，はさみと結び付けられる行為は一般的にデザイナーが関わるものである。一方，そうした行為には chancelier が関わることは考えられず（7 b）は不自然な発話になる。

（7）a. La couturière n'a pas touché *à une paire de ciseaux* depuis 3 mois.

b. ? Le chancelier n'a pas touché *à une paire de ciseaux* depuis 3 mois. (*ibid.* : 118)

また，対象は何らかの事物・行為を導入するものでなければならない。その例として Vandeloise は好ましくないものや法律で禁止されているもの，または特定の職業で使用される道具を挙げている。

（8）a. Le doyen n'a pas touché *à une cigarette.*

b. Le bachelier touche *à la cocaïne.*

c. Le peintre n'a pas touché *à un pinceau pendant l'été.* (*ibid.*)

ところが，事行主体と対象の接触によって生じた結果を表現しようとする場合は以上の制約は課されない。

（9）a. Le chancelier touche *l'épingle.*

b. Le chancelier touche *à l'épingle.* (*ibid.* 120)

(9 a) はうっかりしてピンに触れるという場合でも容認される。一方，(9 b) は chancelier が故意にピンに触れる場合でなけれ容認されない。そうした主体の意図性を示すことにより，発話者は聞き手に chancelier がとった行為の要因を探ること，そして行為の結果について熟考を促すと Vandeloise は述べている。

1. 3. まとめ

以上，辞書と先行研究の記述を参考にしつつ，Ø GN と À GN の間の選択に関与する要因を検討した。そして以下の点を見た：

（a）事行主体と対象との物理的な接触を述べる場合は Ø GN を選択する。

（b）事行主体が対象に対して何らかの働きかけを意図して触れる／触れようとすることを述べる場合は À GN を選択する。また，発話者は，事行主体がどんな意図を持って対象に接触しようとするかまたは接触によってどんな結果が生じるかを聞き手に熟考させるために À GN を選択することもある。

（c）対象に通常結び付けられる事物・行為を述べる場合や対象との接触の結果を述べる場合は À GN を選択する

（d）危険な物や大事な物・人といった接触が好ましくないものとして対象を提示する場合は À GN を選択する。

（e）À GN は否定文の中で多く用いられる。

以上の指摘をもとに冒頭で挙げた（2），（3）を再検討してみよう。まず，（2）では，話し手が拳銃に物理的に触れるよう相手に命令している場面であるため（2 a）のみが可能である。一方，（3）は火と物理的な接触がないことを述べているのではない。この例では，発話者は火に結び付けられる行為つまり火を使う調理に携わっていないことを述べているため（3 a）のみ容認されるのである。

2. 事 例 研 究

次に実際の使用例の中でどのような対象が Ø GN または À GN で表されているかを見てみよう。本稿でコーパスとして使用したのは，映画のシナリオ（64 作品），演劇のシナリオ（12 作品），小説（85 作品）である。この中で toucher を含む例は 1360 件認められた。以下では，これらのデータに現れた GN の使

用頻度順に示す。括弧内の数は，コーパス全体で認められた GN の件数である。

2. 1. Ø GN

Ø GN を選択する場合の GN として以下のものが確認できた。

（10）

épaule（27）	25	oreille（7）	5
bras（20）	14	pieds（6）	5
main（22）	12	visage（6）	4
sol（12）	11	somme（5）	4
fond（15）	11	dollars（5）	4
bord（13）	9	eau（7）	3
francs（10）	8	femme（6）	3
argent（11）	6	poitrine（6）	3
front（9）	6	cou（4）	3
bois（6）	6	joue（3）	3

GN となる対象は具体物であることが圧倒的に多い。しかし，fond や bois に関しては，（11），（12）のような具体物である「底」や「木」に触れる用法よりも，むしろ（13），（14）といった toucher le fond「（貧困・絶望などの）極みに達する」，toucher du bois「（木に触れて）厄除けをする」といったイディオムとして用いられている例が多く認められる。

（11）*Les élèves s'approchent tous du bord de la piscine. Christina et Nicole descendent hâtivement de la terrasse et rejoignent les enfants près du bassin.*

Les élèves : Oh regarde–le, il est là. . . Il va toucher *le fond!*

（H.–G. Clouzot, 1955, *Les Diaboliques*）

（12）Jean–Pierre se penche, en touche *le bois pourri,* l'examine en siflo-

tant.

（J. Deschamps et O. Lorelle, 1996, *Méfie–toi del'Eau qui dort*）

（13）Et soudain, comme il touchait *le fond* de la solitude, du regret, de la honte, une pensée s'empara de lui avec une telle force qu'il dut s'asseoir sur son lit（. . .）

（G. Cesbron, 1954, *Chiens perdus sans collier*）

（14）– Où avez–vous pris, monsieur, que j'étais fétichiste?

– En vous voyant toucher *du bois* quand vous croyez qu'on ne vous regarde pas!

– Moi, toucher *du bois,* vous m'avez vu, moi, toucher *du bois*?

– Plus de vingt fois par jour!. . .　（G. Leroux, *Le Fauteil hanté*）

そして，Ø GN を選択する場合に使用頻度が高い GN として身体部位を表すものが上位 20 件の半数を占めた。

（15）Elle toucha *l'épaule d'Angèle* pour capter son attention.

（H. Troyat, 1980, *Viou*）

（16）Je tendis doucement la main pour toucher *son épaule qui tremblait.*　（H. Murakami, 1987, *La Ballade de l'impossible*）

次に，argent, franc といった金銭に関わる表現が多く認められる。ただし，金銭に関わるものが対象である場合に toucher は貨幣との物理的接触ではなく，金銭を得ることといった意味の特殊化が起こっている。この点について小熊（1996）は，一般的に金銭に触れると，その金銭は触れた主体の所有となるため，金銭の所有という意味に転じると指摘している。

（17）a. En tant qu'ipésienne, elle touchait *1 060 francs* par mois.

（R. Merle, 1970, *Derrière la vitre*）

b. Je vous le répète, si j'étais intéressée par l'argent au point d'avoir fait tuer mon mari pour toucher *l'assurance,* je ne me serais pas embarrassée d'un type de seize ans qui n'avait pas un sou en poche!

（S. Sawicki, 1993, *Leçon particulière de meurtre*）

2. 2. À GN

À GN を選択する場合の GN として以下のものが確認できた。

（18）

fin（19）	17	drogue（2）	2
ça（29）	6	terre（12）	1
argent（11）	4	tête（7）	1
but（4）	4	femme（6）	1
café（4）	4	père（4）	1
chose（18）	3	maman（4）	1
épaule（27）	2	goutte（3）	1
bière（2）	2	peau（3）	1
stocks（2）	2	vie（3）	1
fille（4）	2	piano（1）	1

Ø GN と同様に GN となる対象は具体物が多く認められた。しかし，その一方で fin, but, vie などの抽象物も確認できる。特に，fin や but は toucher à sa fin, à leur fin「時期・終わりに近づく」や toucher au but「目的を達成する」といったイディオム表現で用いられている。

（19）La journée touche *à sa fin.*

（A. Desplechin, 1996, *Comment je me suis disputé*. . .）

（20）D'après les résultats des tests, Fukiya me semble être l'assassin, mais je ne peux encore l'affirmer avec certitude. Pourriez–vous le convoquer encore une fois? Faites–moi confiance, je sens que je touche *au but.*（*Le Test Psychologique*）

また，Ø GN の中で認められた身体部位や argent も確認できる。しかし，Ø GN と À GN の選択によって伝わることが異なるようである。

身体部位を GN とする場合は Ø GN と À GN の両方を用いることができる。つまり，〈toucher＋身体部位＋àqqn〉または〈toucher＋qqn＋à 身体部位〉の 2 つの構文をとることができる(4)。両者の使い分けに関して，『白水社ラルース仏和辞典』と小熊（1996）が興味深い指摘をしている。「(注意を引こうと)～の体に触れる」という場合は身体部分を Ø GN で表す（21）を用いる。一方，人を Ø GN で表し，身体部分を À GN で表した（22）に関しては銃器その他によって人を損傷するという解釈になるようである。

（21）Je sens une main qui me touche *l'épaule,* je me retourne, c'était Pierre. （『白水社ラルース仏和辞典』：1134）

（22）Le doyen touche le gouverneur *au menton.* （小熊　1996：9）

上で，金銭を受け取ることを伝える場合は Ø GN を選択することを見たが，金銭の使用を述べる伝える場合は À GN を選択する。

（23）Antoine : C'est à qui, cet appareil?
Fred : Ben c'est à moi, je l'ai acheté. . .
Antoine : Mais enfin, tu déconnes ou quoi? On avait dit qu'on touchait pas *à l'argent* avant que l'affaire se tasse.
（P. Salvadori, 1995, *Les Apprentis*）

（24）Cependant, comme les mariages de leurs trois filles s'étaient succédé, ils avaient dû toucher *à l'argent* qu'ils avaient mis de côté comme fonds pour ouvrir cet établissement, （. . .）
（T. Miyamoto, 1994, *Le Brocart*）

さらに，café, bière といった飲食物やそれらを入れる容器が認められた。飲食物や容器に触れるのではなく，飲食物や容器の内容物を摂取する場合は À GN を選択する。以下の例は飲食物に手をつけないことを述べている。

（25）Katase écouta Honma en silence sans toucher *à son café.*
（M. Miyabe, 1994, *Une Carte pour l'enfer*）

（26）Il toucha à peine *à la nourriture* et ne prit qu'une part distraite à

la conversation. (H. Troyat, 1987, *Le troisième bonheur*)

(27) Je goûtai aux épinards. Hatsumi ne toucha pas *à son assiette.*

(H. Murakami, 1987, *La Ballade de l'impossible*)

(28) Le petit vieux buvait sa bière à petites gorgées, tandis que le jeune couple parlait à voix basse, sans toucher *à ses verres.*

(H. Murakami, *Le Fin des temps*)

次に挙げる eau, gâteau も飲食物である。しかし「水を飲むこと」,「お菓子を食べること」を述べているのではなく，水やお菓子との物理的な接触を述べている。そのことから À GN は不適切となる。

(29) Fais attention à ce que tes bagages ne touchent pas *l'eau,* dit–elle tout en continuant à nager. (H. Murakami, *Le Fin des temps*)

(30) Et puis, maman, tu sais bien que je ne veux pas que tu touches *les gâteaux* quand tu fumes. La cendre peut tomber, ce n'est pas propre. . . (R. Laffont, 1962, *La maison des autres*)

それでは，次に対象をどのようなものとして提示する場合に À GN を選択するかを見ていくことにする。上で À GN を選択する場合の対象は「危険な物・大事な物・人」であるという記述をみた。確かに，実例を観察すると，接触が好ましくない対象として提示する場合は À GN を選択することが認められる。

例えば，(31)－(33) の麻薬や刃物そして毒物といった対象は違法性や危険性を持ち，接触が好ましくないものである。

(31) Il avait rencontré une bande de blacks très entreprenants et il dealait de la drogue– de l'héroïne, de la cocaïne. Il faut savoir que mon père est de la vieille école : on ne touche pas *à la drogue.*

(G. Hartznark, 1992, *Le Prédateur*)

(32) Ah! ne touche pas *aux couteaux,* surtout ne te coupe pas!

(A. Resnais, 1974, *Stavisky*)

(33) Tu as vu une bouteille, en verre bleu, cachetée avec de la cire

jaune, qui contient une poudre blanche, sur laquelle même j'avais écrit : Dangereux! et sais–tu ce qu'il y avait dedans! De l'arsenic! et tu vas toucher *à cela!* prendre une bassine qui est à côté!

（G. Flaubert, *Madame Bovary*）

一方，次に挙げる bière, cigarette, argent はそれ自体には違法性や危険性があるわけではない。しかし（34）では 14 歳の飲酒・喫煙を，（35）では殺人によって得た金を話題にしている。そのように，文脈によって対象に違法性や危険性が付与されることもある。

（34）J'ai renvoyé mon fils au Bled. A 14 ans, il touchait à la bière, *à la cigarette.* （A. Michel, 1999, *La cité qui fait peur*）

（35）L'argent de ce vieux, qui avait sali sa femme, dont il avait fait justice, cet argent taché de boue et de sang, non! non! ce n'était pas de l'argent assez propre, pour qu'un honnête homme *y* touchât.

（E. Zola, *Bête humaine*）

さらに，対象が大切なものであるために，接触が好ましくないこともある。（36）で開店資金に貯めておいた金を，（37）では彼女のために植えたプラムの木を話題にしている。

（36＜24） Cependant, comme les mariages de leurs trois filles r'étaient succédé, ils avaient dû toucher à *l'argent qu'ils avaient mis de côté comme fonds pour ouvrir cet établissement*，（. . .）

（T. Miyamoto, 1994, *Le Brocart*）

（37）J'ai planté pour elle, dans le jardin, sous ta chambre, un prunier de prunes d'avoines, et je ne veux pas qu'on *y* touche，（. . .）.

（G. Flaubert, *Madame Bovary*）

ところで，接触によって好ましくない事態が生じる場合も À GN を選択する。例えば，（38）では修理しようとすればするほど調子が悪くなるラジオを話題にしている。（39）では紙でできた仕切りを話題にしている。A は接触に

よって紙が破れる危険性を認識しているため仕切りを接触が好ましくない対象として提示している。

(38) Comme la radio ne marchait pas bien, un ouvrier a réglé le son, mais plus il *y* touchait, plus c'était trouble, et on n'a pas pu entendre distinctement. (M. Ibuse, 1972, *Pluie noire*)

(39) A : Et tout est si japonais! poursuivit–elle. Les cloisons sont en papier, n'est–ce pas? J'ai envie d'*y* toucher.

B : Quoi?

A : Le papier a l'air si doux. . .

(M. Yamamura, 1993, *Des Cercueil trop fleuris*)

また，好ましくない事態を避けるよう，相手に注意を促す場面でも À GN を選択する。(40) では人を突くがちょうに触れないように相手に注意している場面である。(41) は感染する恐れがあるので傷口に触れないように注意している場面である。

(40) Une oie dressait son long cou blanc hors d'un panier. Sylvie voulut la caresser.

–N'*y* touche pas, mignonne, grogna la paysanne. Elle te pincerait!

(H. Troyat, 1980, *Viou*)

(41) Non, ne passez pas la main sur la plaie. N'*y* touchez pas avant qu'on y mette du médicament. Si vous y touchez, vous pouvez vous infecter.» (M. Ibuse, 1972, *Pluie noire*)

2. 3. 肯定文と否定文

上で，À GN は否定文の中で多く用いるという指摘を見たが，事実，À GN または y は Ø GN と比べて否定文の中で使用頻度が高い。また sans, à peine といった否定に準ずる表現が用いられている文の中でも À GN が選択される傾向にあることがわかる。一方，Ø GN は肯定文の中で選択される傾向にある。

さらに，文のモダリティに注目すると，否定命令文の中で À GN の使用頻度が高いことに気付く。括弧内の数字は命令文での使用頻度である(5)。

(42)

	肯定文	否定文	否定に準ずる表現
Ø GN	347（6）	18（0）	12
À GN	97（0）	51（32）	45
LE	113（0）	28（3）	7
y	9（1）	31（8）	31

2. 2 で，接触が好ましくない対象として提示する場合は À GN を選択することを見た。À GN が否定命令文の中で多く用いられるのは，接触が好ましくない対象との接触を回避するように促すことが一般的であるという語用論的な要因によるものと考えられる。

3. おわりに

本稿では，動詞 toucher の目的補語を名詞グループで表示する際に認められる Ø GN と À GN の間の使い分けを考察した。

対象との物理的な接触を述べる場合は Ø GN を選択し，対象に通常結び付けられる事物・行為を述べる場合や対象との接触の結果を述べる場合は À GN を選択する。そして，接触が好ましくないものとして対象を提示する場合は À GN を選択する。また，コミュニケーション場面では，通常，接触が好ましくない対象には接触を避けるよう相手に促すことから，否定命令形の中で À GN が多く用いられるのである。

動詞 toucher は本稿で考察した具体物のみを事行対象とするわけではない。今後の課題として，抽象物を事行対象とする場合を含め，Ø GN と À GN の間の選択を総括的に記述する必要がある。

注

(1) a, b のように示す発話例の場合は a がオリジナル。インフォーマント調査には Olivier Birmann 先生（関西学院大学）にご協力いただき，多くの示唆を得ることができた。

(2) 例えば,『小学館ロベール仏和大辞典』

(3) Picoche（1986）によると toucher au port は比喩的な意味で用いることが圧倒的に多いと指摘している。

(4) 身体部位に関しては以上の構文の他に，上で示した(10)，(11)のように〈toucher＋身体部位＋de　身体の所有者〉や〈toucher＋所有形容詞＋身体部位〉といった構文をとることも可能である。身体部位に関する動詞の構文については小野（2005）を参照のこと。

(5) 命令文では対象を表示しない次のような例がしばしば認められる：
La course à pied, c'est un don chez moi. . . qu'est–ce que tu veux, c'est dans les chromosomes, ça! Vas–y, j'ai des cuisses en acier. . . Ben, *touche!*（J.–J. Beineix, 1980, *Diva*）
対象の表示と非表示の選択については別の機会で論じることにする。

主要参考文献

Picoche, J.（1986）, *Structures sémantiques du lexique français,* Nathan.
Vandeloise, C.（1993 a）, "Espace et motivation", *Faits de langues* 1, 181–188.
————（1993 b）, "La préposition à pâlit–elle derrière toucher?", *Langages 110,* 107–127
小熊和郎（1996）,「意味から操作図式へ－toucher ∅/à の分析方法を求めて－」『フランス語フランス文学論集』35, 1–25.
小野正敦（2005）,「動詞構文における「体の部位」名詞」『フランス語を探る　フランス語学の諸問題 III』，東京外国語大学グループ《セメイオン》，三修社，29–47.

Le Robert en langue française
Grand Larousse de la langue françiase
『小学館ロベール仏和大辞典』
『白水社ラルース仏和辞典』

――大学院文学研究科研究員――